

慶應義塾大学大学院  
2017年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 商業学

以下の設問すべてに解答しなさい。

設問1. インターネットを利用した e コマース (e-commerce) の普及によって流通構造はどのように変化すると考えられるか。考えられる流通構造の変化を2つとりあげ、それぞれについてマーケティング・流通に関する研究 (理論・モデル・概念など) を用いて論じなさい。

設問2. 異なる地域 A、B、C の間で、ある製品カテゴリーの1家計あたりの年間消費量に違いがあるかどうかを知りたい。そのために1次データ (primary data) を収集して統計的分析を行うという、マーケティング・リサーチを行うことにした。このマーケティング・リサーチの手順と内容を考えて具体的に示しなさい。

設問3. 以下の用語すべてを、それぞれ5行以内で説明しなさい。

- 問1 需要の交差価格弾力性 (cross price elasticity of demand)
- 問2 マーケティング競争における先発優位性 (first mover advantage)
- 問3 マーケティングにおけるプッシュ戦略 (push strategy) とプル戦略 (pull strategy)
- 問4 消費者の意思決定におけるヒューリスティクス (heuristics)
- 問5 再販売価格維持行為 (resale price maintenance)

慶應義塾大学大学院  
2017年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 経営学

以下の設問すべてに答えなさい。

設問1

持続的な競争優位 (sustained/sustainable competitive advantage) とは何か説明しなさい。また、企業がそれを得るために満たすべき条件は何か、資源ベース理論 (resource-based view of the firm) にしたがって説明しなさい。

設問2

横断的 (水平) 組織 (lateral organization) とは何か説明しなさい。また、職能別組織 (functional structure/organization) と事業部制組織 (multi-divisional structure/organization) のそれぞれにおいて、横断的 (水平) 組織がどのような役割を果たしうるか説明しなさい。

設問3

企業の国際化におけるマルチドメスティック戦略 (multi-domestic strategy) とグローバル戦略 (global strategy) の違いについて説明しなさい。

慶應義塾大学大学院  
2017年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 会計学

以下の設問1～設問4の中からいずれか2問を選択して答えなさい。(例えば、設問1と設問2、あるいは設問1と設問4など)。なお、解答の際には、設問番号を明記し、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。

### 設問1

企業結合 (business combination) で発生するのれん (goodwill) について、次の問1から問3まで全てに答えなさい。

- 問1 貸借対照表 (balance sheet) に計上する根拠を、できるだけ多く説明しなさい。
- 問2 貸借対照表にのれんを計上した場合、決算期末において、規則的な償却をしない方法 (非償却処理 non-amortization) の根拠を、できるだけ多く説明しなさい。なお、減損処理が必要な場合には減損処理を行うものとする。
- 問3 貸借対照表にのれんを計上した場合、決算期末において、規則的な償却をする方法 (要償却処理 amortization) の根拠を、できるだけ多く説明しなさい。なお、減損処理が必要な場合には減損処理を行うものとする。

### 設問2

証券市場 (security market) と会計情報 (accounting information) との関係について、次の問1から問4まで全てに答えなさい。

- 問1 国際的に共通な会計基準 (international accounting standard) の必要性について、①情報利用者である投資家 (investor) と、②情報作成者である会社 (firm) のそれぞれの立場から考えられる論拠を、できるだけ多く説明しなさい。
- 問2 ①効率的市場 (efficient market) とは何か。②株式投資におけるファンダメンタル分析 (fundamental analysis) およびバリュー投資 (value investment) とは何か。③ファンダメンタル分析が効率的市場の成立に役立つとすれば、どのような論拠が考えられるのか。①から③について記述しなさい。
- 問3 ファンダメンタル分析を行う場合、営業利益 (operating income)、当期純利益 (net income)、包括利益 (comprehensive income) のいずれの利益指標が有用であろうか、比較検討しなさい。
- 問4 発生主義会計に基づく利益にはどのような誤りが生じる可能性があると考えられるか記述しなさい。

慶應義塾大学大学院  
2017年度 商学研究科修士課程入試問題

**分野別試験 会計学**

設問 3

設備投資の意思決定 (capital investment decision) について、次の問 1 から問 3 まで全てに答えなさい。

問 1 設備投資案の採算性を検討するための手法 (経済性計算の手法) を 4 種類あげ、それぞれについて簡潔に説明しなさい。

問 2 下記<投資設備案例>を使って、問 1 で解答したそれぞれの計算プロセスおよび結果を示しなさい。

問 3 設備投資の意思決定を検討する際の資本コスト (cost of capital) の役割について説明しなさい。

<設備投資案例>

投資額 32.4 百万円

予想されるキャッシュフロー流入額

1 年後から 4 年後まで毎年末に 10 百万円

なお、当該投資設備は 4 年が耐用年数である。

この会社では資本コストを 10%としている。

現価係数表(一部抜粋)

|       |        | 現価係数表(一部抜粋) |         |         |         |         |         |         |
|-------|--------|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| n \ r |        | 6%          | 7%      | 8%      | 9%      | 10%     | 11%     | 12%     |
| 1     |        | 0.94340     | 0.93458 | 0.92593 | 0.91743 | 0.90909 | 0.90090 | 0.89286 |
| 2     |        | 0.89000     | 0.87344 | 0.85734 | 0.84168 | 0.82645 | 0.81162 | 0.79719 |
| 3     |        | 0.83962     | 0.81630 | 0.79383 | 0.77218 | 0.75131 | 0.73119 | 0.71178 |
| 4     |        | 0.79209     | 0.76290 | 0.73503 | 0.70843 | 0.68301 | 0.65873 | 0.63552 |
| 5     |        | 0.74726     | 0.71299 | 0.68058 | 0.64993 | 0.62092 | 0.59345 | 0.56743 |
|       | r: 割引率 |             |         |         |         |         |         |         |
|       | n: 年   |             |         |         |         |         |         |         |

設問 4

責任センター (responsibility center) の 4 つの種類を明示し、その特徴を的確に比較しつつ説明しなさい。

慶應義塾大学大学院  
2017年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 ミクロ経済学

<金融・証券論> <保険論> <交通・公共政策・産業組織論>  
<計量経済学> <国際経済学> <産業史・経営史> <産業関係論>

下記の設問1, 設問2にすべて解答しなさい。1つの設問に1枚の解答用紙を使用すること。解答の際には設問番号および問番号を明記すること。

設問1 以下の問1、問2にすべて答えなさい。

問1 支出最小化問題(the problem of an expenditure minimization)を解き、補償需要関数(compensated demand function)を求めなさい。ただし効用関数(utility function)は $u(c_1, c_2) = c_1 c_2$ で与えられ、

$(c_1, c_2, p_1, p_2, I)$ は順に、財1の消費量、財2の消費量、財1の価格、財2の価格、所得である。

問2 以下の(1)、(2)にすべて答えなさい。

(1) 通常的需求関数(ordinary demand function)と補償需要関数(compensated demand function)の違いについて図および式で説明しなさい。式で説明する際には変数を定義して述べなさい。図以外の部分は4行以上6行以内で説明しなさい。

(2) 公共財(public goods)について2つの性質(characteristics)を説明しなさい、またそれらの2つの性質を満たす財の例を1つあげなさい。3行以上5行以内で説明しなさい。

設問 2 以下の問 1、問 2 にすべて答えなさい。

問 1 いま 10 万円の投資資金があるとしよう。トヨタ株を買ったとしたら、株式を保有することから 1 年後には、20%の確率(probability)で 15 万円、40%の確率で 11 万円、40%の確率で 9 万円となる。その資金を銀行(bank)に預金(deposit)した場合、1 年後には 11 万円となる。

- (1) 10 万円のトヨタ株への投資(investment)から得られる収入(return)の期待値(expected value)はいくらかを計算しなさい。
- (2) あなたはリスク回避的(risk averse)としよう。このとき、トヨタ株への投資と銀行預金のどちらを選ぶと考えられるか。その理由を含めて 5 行以内で説明すること。

問 2 ある産業において、各企業の費用関数(cost function)は同一とする。この産業は完全競争市場(perfectly competitive market)である。各企業の産出量(output)を  $Y$  とすると、その費用関数は  $C = Y^2 + 9$  となる。また、この産業の需要関数は、価格を  $P$  とすると、 $D = 99 - P$  となる。

- (1) 各企業の平均費用関数(average cost function)を求めよ。
- (2) 各企業の平均費用関数を最小にする  $Y$  を求めよ。
- (3) この産業には長期的にいくつの企業が存在しうるか求めよ。